

令和3年度 2月4日 愛媛教育研究大会小学校の部

【ぎんなん学習補助資料】

単元「えがおいっぱい かぞくハッピー大きくせん♡」の実際

【授業づくりのコンセプト】

家族のハッピーを探究する過程を通して、

自立に向かう心を育てる学習

愛媛大学教育学部附属小学校

大塚 翔

☆ 国語科で手紙によって年長児をハッピーにする活動や道徳科で家族への感謝について考える学習を行うことで、「家族をハッピーにさせたい」という思いや願いを育てる。

子どもたちは、秋の遊園地で遊んだ後、学習を振り返った。秋の学習を振り返る中で「年中さんと一緒に遊んでとても嬉しかった」「年長さんと遊ぶととても楽しいよ」「年長さんが協力して手伝ってくれたことで、とても盛り上がって嬉しかった」と他者とかかわる喜びをたくさん感じていた。そこで、教師は、「みんなは、秋を楽しみましたね。それは年長さんのおかげということかな」と5歳児の存在の意義に着目させ、「年長さんにさ、みんなだったらどうしてあげたい」と問い掛けた。子どもたちは「じゃ、アサガオの種をあげるとかどう」「お礼っていうのも、いいもんだね」「お手紙を書くなんていいんじゃない」「サプライズしたいね」「一緒に付き合ってくれた恩返しとして、大量に採れたサツマイモをおすそ分けするっていうのはどう」「それ、面白いね」と盛り上がり、5歳児にお礼で喜ばせたいという新たな思いを持つことになった。

国語科「こころぽかぽか手がみをかこう」の学習と関連させて、子どもたちは、5歳児に向けて手紙を書くことにした。思い思いの言葉を綴り、ある子は、「秋探しの時に一緒に探してくれてありがとう。これからもよろしくね。大好き」と温かい手紙を書いていた。仕上げた手紙に、アサガオの種を入れて、ハート形に折り畳み、隣接する幼稚園に行き手紙を渡しに行った。子どもたちの温かな思いを5歳児は喜んでいいる様子が見られた。子どもたちも、「年長さんを喜ばせることができたね。ハッピーになってね」と言って喜んでいた。



道徳科「かやねずみのおかあさん」の学習では、「どうして家族は自分に対して怒るのか」という問題を解決するため資料を通して家族の大切さについて考えた。子どもたちは、家族の行動の背景にあるものを感じ取り、家族の大切さについて改めて気付くことができ、「私も家族に何かしてあげたいな」という気持ちを持つことができた。

【「かやねずみのおかあさん」の感想】

- 私は最初、家族はただ怒っているだけと思ったけど、このお話を聞いてただ怒っているのではなく、ちゃんと理由があって怒っているんだなと思いました。だから、次からは気を付けようと思いました。
- 今日の学習で家族というものはとても大切なものだと思います。僕はこれからどんどん家族を大切にしていきたいと思います。

【今の目による見取りと指導】

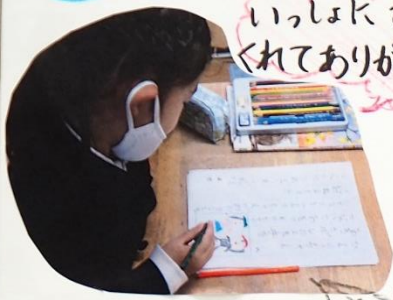
- 子どもたちは、5歳児と交流したことを自分事として捉え、5歳児のおかげで自分たちが楽しくなり、喜びを感じることができた意識するようになった。さらに、そのように感じた子どもは、5歳児に恩返しをしたいという思いを持ち、その思いを実現し満足感を得ることができた。
- 道徳科「かやねずみのお母さん」の学習を通して、家族のよさや家族に何かしてあげたいという思いを自覚することができた。
- 子どもたちには、「年長さんを喜ばせた」「家族を大切にしたい」という第0時の経験が、本単元の「ハッピー大作戦」の学習につながっていくという意識はない。子どもたちの思いは芽生えているが、時間の経過とともにその意識が薄れていく可能性はある。
- ☆ 次時の学習では、できるだけ間を置かず、子どもの思いや願いが育ってきているうちに、学習を展開していきたい。そして、子どもたちの人を喜ばした経験や家族に何かしてあげたいという思いをハッピー大作戦につなげていきたい。

第0時 教科等横断①② えがおいっぱい😊

出会い

国語科「ころぽかぽかてがみをかこう」

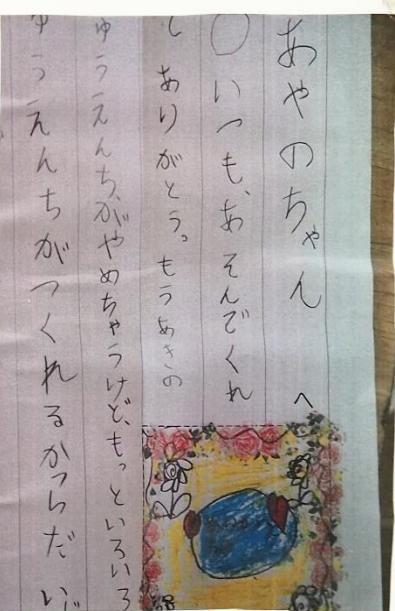
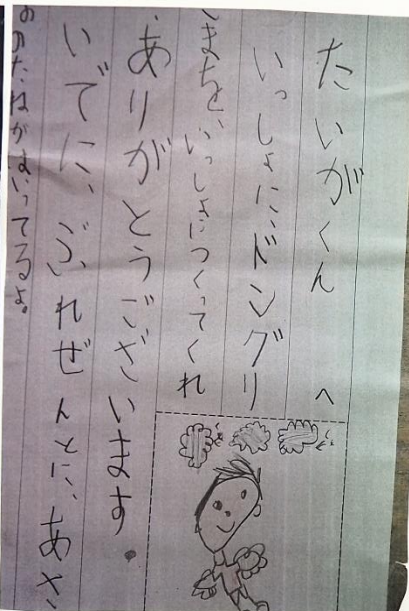
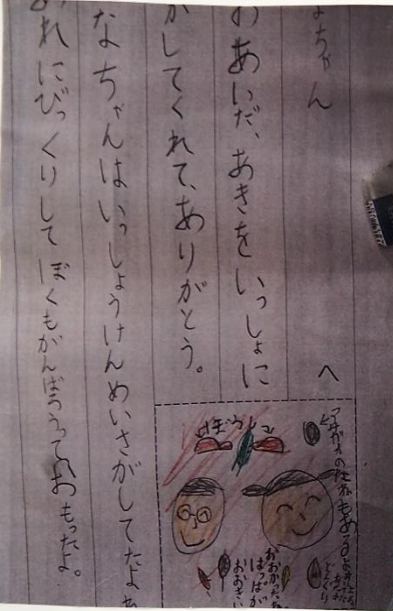
気持ち
わたれたかな



いっしょにあそび
くれてありがとう



ハートの
かたちにあそ



道徳科「かやねずみのおかあさん」

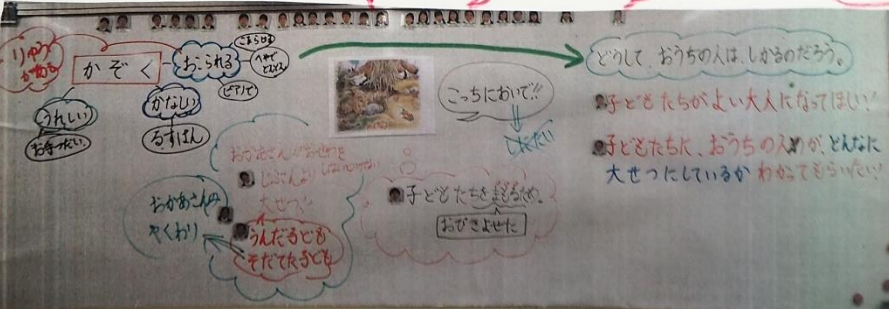
かやねずみのおかあさんは、
自分のいのちがきけんになるのに
おびきやせるなんてすじいね!

子どもたちを
まもるため
なんだ!

それが
おかあさんの
やくわりだよ

どうして
おうちの人は
しかるの?
↓
子どもたちによい
大人になってほしい

どうして
おこるの
かな
↑
うれしいを
いれるな!



命たちの
ためなんだよ

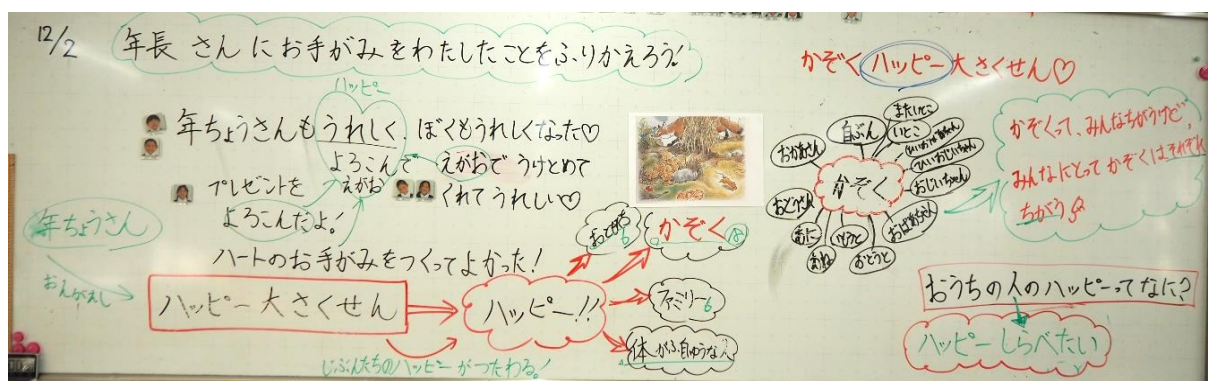
☆ 5歳児に手紙を渡した時の映像や道徳科で使った資料の挿絵で振り返ることで、家族をハッピーにさせたいという思いや願いを持つことができるようにする。

まず、幼稚園の5歳児を喜ばせた活動について映像で振り返り、よかったことや自分が嬉しかったことを考えた。すると、「年長さんが笑顔になってくれて嬉しかった」「笑顔で受け止めてくれて、僕も嬉しくなったよ」「ハートのお手紙をつくってよかった」と夢中で語っていた。教師は子どもたちの満足感や充実感が高まった時機を見計らい、「他にどんな人をハッピーにしてみたい？」と尋ねた。すると、子どもたちから「家族」「ファミリー」「友達」が意見として挙がってきた。ここで、「かやねずみのおかあさん」の挿絵を提示し、既習の学習とつなげようと試みた。このような働き掛けもあり、子どもたちが一番ハッピーにさせたい「家族」が選ばれることになり、家族ハッピー大作戦をすることになった。



次に、「家族って誰がいるのか」を子どもたちと考え、家族の範囲の共通認識を図った。「お母さん」「お父さん」「兄弟姉妹」「祖父母」が出てきた中で「いとこ」という意見もあり、子どもたちの家族の範囲の認識の違いが見えてきた。すると、「みんなの家族は、一人っ子がいたり兄弟がいたりして、みんな家族が違ってみんないいなと思います」と、家族の形の多様性を価値付けてくれた。

最後に、「みんなは、年長さんにとってお手紙をあげることがハッピーと思ったんよね。じゃ、みんなの家族のハッピーって何かな？」と問い掛けた。子どもたちは「う〜ん・・・」と悩んでいる様子だったので、「ちょっと悩んでいるようだね。どうしたら分かるかな？」と声を掛け、「家族のハッピー調べ隊」となって調べてくることになった。



【今の目による見取りと指導】

- 子どもたちは、5歳児を喜ばせたことだけではなく、自分自身が嬉しくなったことにも気付いていた。そのことが、「他の人も喜ばせたい・ハッピーにさせたい」という思いや願いを持つことにつながったと考える。
- ハッピーにしたい対象は主に「家族」「ファミリー（縦割り班）」「友達」であった。結果的に家族を選んだ子どもが多かったため、家族を対象にしたが、どれも学習対象にしたり、意見として練り合わせたりしてもよかった。
- ☆ 次時の学習では、「ファミリー」や「友達」を選んだ子どもたちにも、家族をハッピーにさせたいという思いを持たせることができるよう、しっかりとつないでいきたい。

第1時 えがおいっぱい😊かぞくハッピー大さくせん♡出会い

◎ 年ちょうさんにお手がみをわたしたことをふりかえろう!



お手がみをよんで
くれてうれしいなあ。

どうがで"ふりかえよ!"



年ちょうさんがえがおた
なてくれたおた〜

ハートのお手がみも
よかたね!



ほかのどんな人を
ハッピーにさせたい?



体がふじゆうな人

ファミリーも
いいな

とむだお

かぞくて大せつ!



かぞくがいいな!

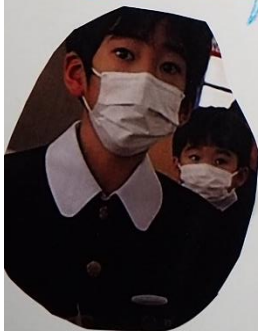
かやねすみのおかあさん
みたいにおんがえしたなあ



かぞくのハッピーって
なんだろうね?!

かぞくてみんな
ちがうけど、みんな
にとって、かぞくはそれ
ぞれちがうね!

自分
おかあさん
おとうさん
あに
おね
いとこ
おばあちゃん
おじいちゃん
おじいちゃん
おばあちゃん



うん...

12/2 年長さんにお手がみをわたしたことをふりかえろう!

年ちょうさんもうれしく、ほくもうれしくなると
よるこんで えがおでうけとて
プレゼントをあげてくれてうれしい♡
よろこばよ!

ハートのお手がみをつくってよかた!

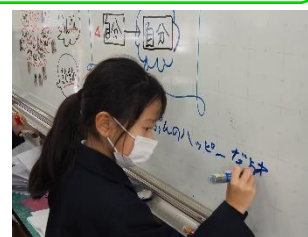
ハッピー大さくせん → ハッピー!!

かぞくハッピー大さくせん♡

おうちの人ハッピーってなに?
ハッピーしらべたい!

☆ 家族にとってどのようなことがハッピーなのかを調べたことを共有することで、家族のハッピーについての捉え方を持つことができるようにする。

子どもたちが調べてきた家族のハッピーを聞いてみると、「好きな色」や「好きな食べ物」、「好きな花」、「自分が元気」、「子どもが元気」、「子どもが帰ってくる」などが出てきた。家族の好きな物を家族のハッピーと捉えている子どもが多く、子どもの成長や自立を願う親の気持ちに気付く子どもはいなかった。共有したものを俯瞰してみた時、子どもたちから「うんうん」とうなずけるものがあったが、「これは何だかおかしい」という意見が数多く出てきた。

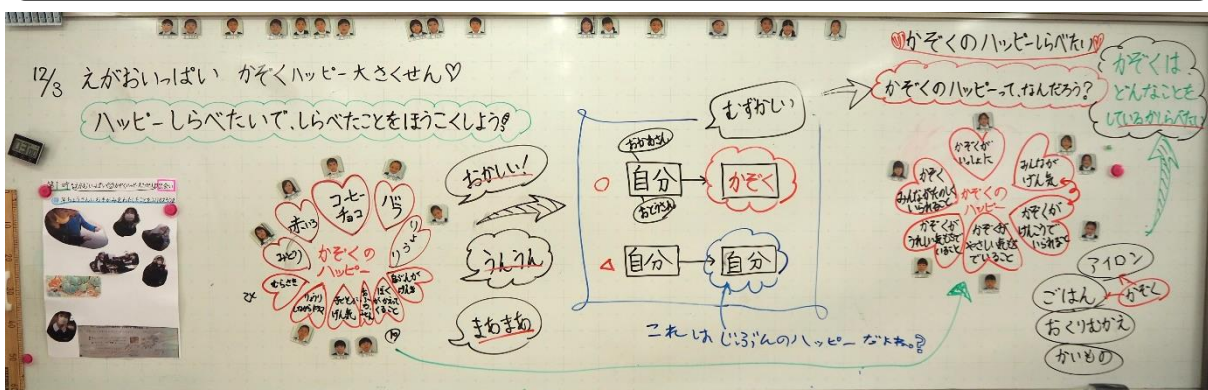


そこで、「そもそも家族のハッピーって何だろう？」と問い掛けると、「家族が一緒にいること」や「みんなが元気」、「みんなが楽しくいられること」、「家族が嬉しい気持ちになること」、「家族が優しい気持ちでいられること」、「家族が健康でいられること」など家族の在り方から考え、「これがみんなが思う家族のハッピーなんだね」と捉えることができた。ここで、その中の一つを取り上げ、「どんな時に、家族は嬉しい気持ちや優しい気持ちになるの？」と問い掛けると、子どもは「そんなに忙しくない時だよ」「いつも子どもたちのために、送り迎えやご飯、買い物をしているから、そんなに時間がないから休み時間が欲しいんだよ」「お母さんは学校が休みの時も、ご飯とかさ、アイロンとかさ、いろいろしていて疲れるんだよ」「お休みの日でもお母さんは働いていると思う」と自分の家族と結び付けて家族が自分のために支えてくれていることを考えることができた。

その後、ある子どもから「みんなの家族がどんなことをしているかは、そばにいと何をしているか分かるから、調べたらいいんじゃないかな」と提案を受けたので、「家族のハッピーもっと調べ隊」として自分のために家族がしていることを調べることになった。

【「家族ハッピー物語」の一部抜粋】

- 今日は昨日調べたお母さんの好きなことを調べたよ。でも、家族のハッピー大作戦ではなく、お母さんの大作戦になっていたよ。だからもう一度、ハッピー大作戦をしてくるよ。
- 今日はハッピー大作戦を考えたよ。今日考えたことは、みんなの家族が好きな物だった。私は「バラ」って言ったよ。でも、お母さんのことしか考えていなかった。でも、後でいい案が出たからよかった。ハッピー大作戦を頑張るぞ！



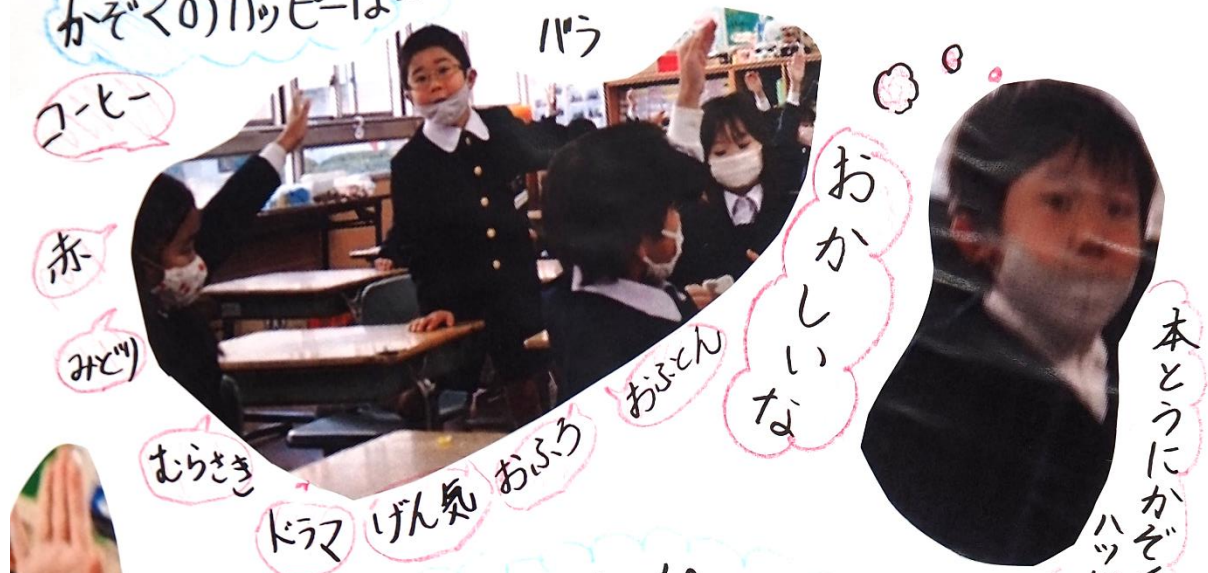
【今の目による見取りと指導】

- 子どもたちが調べた家族のハッピーは、子どもたちにとって捉える視点がなかったものだったが、そこについて子どもたち自身が気付き、自分たちが考える家族にとってのハッピーを見出すことができた。
 - 全体報告という形態であったため、子どもたちは自分の家族のことしか分かっていないようだった。もっと他者とつなぐ伝え合い交流する活動が必要と感じた。
- ☆ 次時の学習では、家族のハッピーについて調べたことを、伝え合い交流する活動を設定していく。

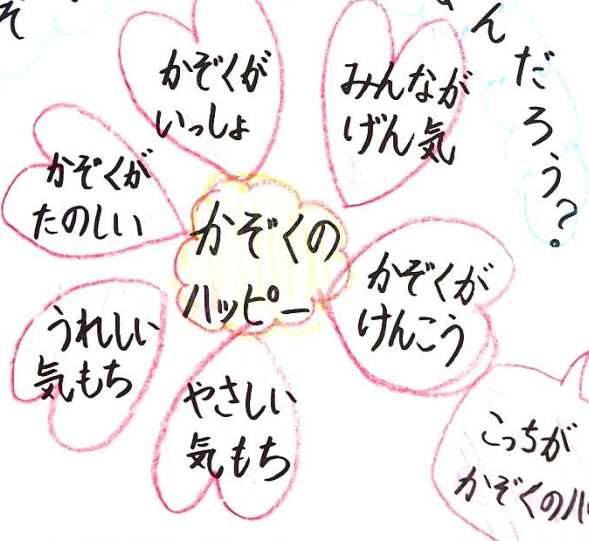
第2時 えがおいっぱい 😊 かぞくハッピー大さくせん♡ 追究

ハッピーしらべたいで、しらべたことをほうこくしよう!

かぞくのハッピーは...

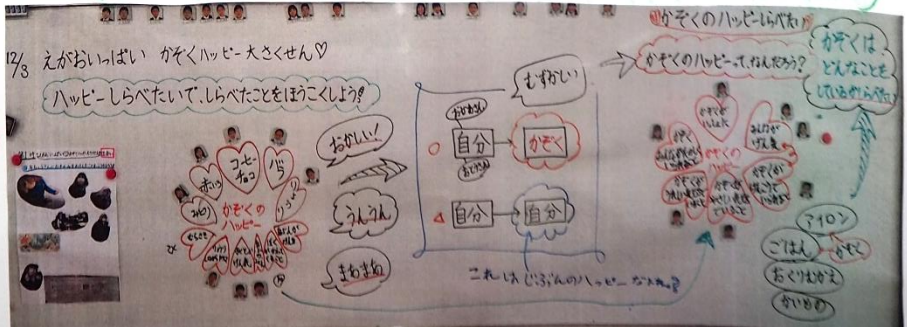


かぞくのハッピーってなんだろう?



かぞくはどんなことをしているかしらべたい

かぞくはいろいろしているみたい!
アイエ
ごはん
おくりむかえ
かいもの



☆ 「ベンチでちょっとーク」で伝え合い交流することで、自分と友達の家を比べながら家族によって支えられていることや家族のハッピーについての気づきを共有できるようにする。

家族の様子をしっかりと調べることができるように土曜日、日曜日が挟む日をねらって第2時の授業を設定したことにより、子どもたちは自分のために家族がしてくれていることを細かく調べることができた。

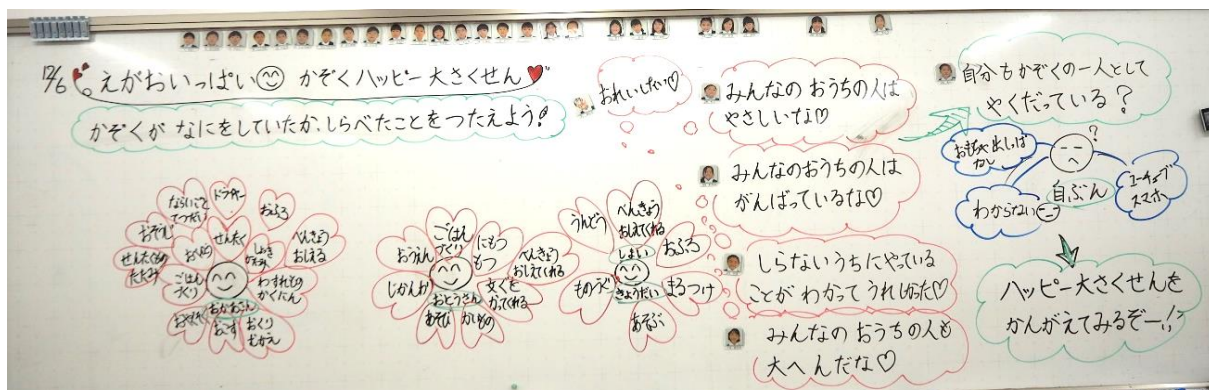
まず、調べたことを「ベンチでちょっとーク」で自由に伝え合い交流する活動を取り入れることにした。この活動は、机を横並びにして、ペアで伝え合い、終えたら次の相手を見つけて伝え合うという交流活動である。じっくり伝え合う子どももいれば、たくさんの友達と伝え合う子どももいて、家族のことについて話したり聞いたりすることができて、満足している様子であった。



子どもたちが調べてきたことを家族の構成員ごとに家庭の役割をまとめながら板書した後、子どもたちに気付いたことを尋ねると、「家族は優しいんだなと思ったよ」「みんなのお母さんやお父さんは、みんなが知らないうちに頑張っているよ」「お家の人がやっている知らないことが分かって嬉しいよ」「お家の人は大変そうだな」「お礼をしたくなかったよ」としっかりと家族の役割やそのよさについて考えることができた。最後、「自分も家族の一人として役立っていると思う」という意見が子どもから出たので、すぐに「みんなはどう思う？」と問い返した。すると、「私は役立っていると思うよ」という子どももいれば、「ちょっと分からない」「役立っていないと思う人」が半数ぐらいいた。理由を尋ねると、「宿題が終わったら、すぐスマホやYouTubeを見るから」「おもちゃを出しっぱなしにしまっている」などの実際の話が出てきて、子どもから「あるある！」と親近感を持つ子どもが多かった。家族の役に立っていないことがあるなら、どのようなハッピー大作戦を考えたらよいかを子どもに投げ掛け、次時の学習の見通しを持たせて授業を終えた。

【「家族ハッピー物語」の一部抜粋】

- 今日は、みんなの意見を聞いてそうなんだーと思ったよ。お父さん、お母さんが面倒くさいことをやってくれているのがすごいことだよ！
- だんだん役に立っているか心配になってきたなー。でも、一緒に遊んでいるからハッピーだと思ったよ。遊んでいる時は、みんなで笑うから私はハッピーだよ。私も家族の一人として役に立っているかな？



【今の目による見取りと指導】

- 家族が自分のためにしてくれていることを細かく調べていたことにより、家族が自分たちを支えていることや家族の優しさや大変さに気付くことができていた。
- 自分が役立っていることと、役立っていないことがハッピー大作戦とどのようにつながりがあるのか、本時では不明瞭なところがあった。
- ☆ 子どもたちのハッピー大作戦でしたいことは家族に手紙を書くことであり、現在そちらに意識が向いている。次時の学習では、役立っていることと役立っていないことを明確にし、それを基に、自分の家族に合う家族のハッピー大作戦を考えることができるようにしたい。

第3時 ♡えがおいっぱい😊かぞくハッピー大さくせん♡ 追究

かぞくがなにをしいか、しらべたことをつたえよう!

ペンチでチョットチャット



パパはりょうりして
くれるよ



あさおこし
くれる!



おんこ!



それいね!

せんたく

りょうり

べんきょう
おしえてくれる!



わすれものかくはん

おれい...



おうちの人がかぞくのため
にいろいろしてくれているよ♡

みんなのおうちの人
やさしいな♡

みんなのおうちの人
がんばっているな♡

しらないうちにやっている
ことがわかってうれしい♡

みんなのおうちの人
も

大へんだね♡

自分がかぞくの
人としてやくだ
ている?!

ハッピー大さくせんをかんがえてみるぞ!

えがおいっぱい😊 かぞくハッピー大さくせん♡

かぞくがなにをしいか、しらべたことをつたえよう!

みんなのおうちの人
やさしいな♡

みんなのおうちの人
がんばっている♡

しらないうちにやっ
ていることがわかって
うれしい♡

みんなのおうちの人
も

大へんだね♡

自分がかぞくの
人としてやくだ
ている?!

みんなのおうちの人
やさしいな♡

みんなのおうちの人
がんばっている♡

しらないうちにやっ
ていることがわかって
うれしい♡

みんなのおうちの人
も

大へんだね♡

☆ 視点を明確にした構造的な板書にすることで、気づきを共有するとともに、自分なりの理由を持って家族に合うハッピー大作戦を考えることができるようにする。

これまでの子どもの意識は、5歳児をハッピーにさせた手紙渡しが作戦内容として中心を占めていた。家族のハッピーとして働き掛けるという点においてはよいのだが、継続していくには難しい。そこで本時では、子どもたちの意識が継続することができ、それが「自立」に向かうための作戦内容になるようにしていきたいと考えた。そのために、前時の学習で話題に上がった「自分が役に立っているか」を子どもたちと考えるところから学習を始めていった。

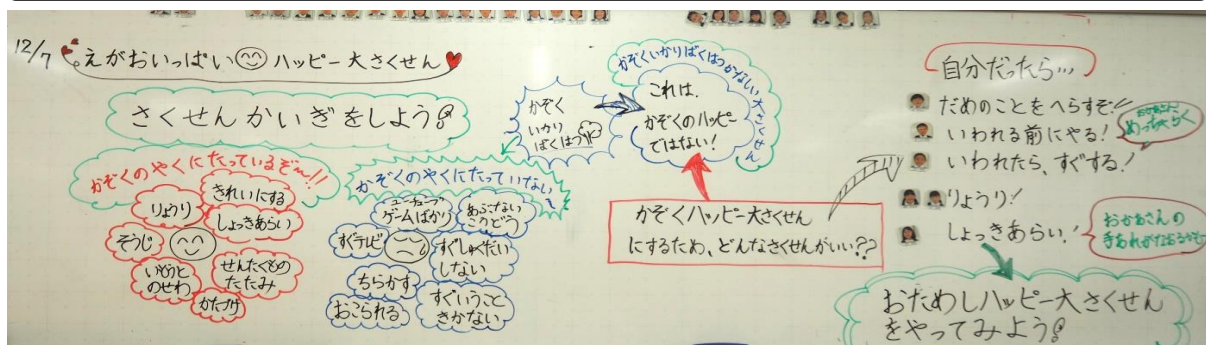
まず、子どもたちに「自分は役に立っていると思いますか?」と尋ねると、子どもたちの意識は半々であった。ここで、「役に立っている」と「役に立っていない」という視点に分けて、対立するように理由を板書していった。家族の役に立っていると思う子どもは、「食器洗いをしている」「洗濯物たたみしているよ」「掃除機で掃除している」「妹や弟の世話をするよ」「お片付けをしている」「身の回りをきれいにしたよ」など、各家庭で頑張っていることを話してくれた。逆に、「家族の役に立っていないことは?」と尋ねると、「ずっとテレビを見ている」「ゲームばかり」「宿題せず遊んでいる」「言われないとやらないよ」「言われてもすぐしない」「おもちゃや家を散らかしてしまう」「怒られてしまう」「危ないことをしてしまう」など、よくありがちな家庭での姿が出てきた。

子どもたちの発言をまとめた板書を見た時、「(役に立っている板書を見て)これ全部したらお母さんは喜ぶね。ハッピー大作戦だ」と家族のハッピーに気付くことができていた。また、「家族の役に立っていないことは、家族怒り爆発大作戦だね」と価値付ける子どももあり、「ますますハッピーにならなくなるよ」と子どもたちの中にどのような作戦が家族のハッピーとなるのか、見通しを持つことができた。子どもたちの作戦の方向が見えてきた頃を見計らい、「どんな作戦を考えたらいい?」と問い掛けると、「お風呂掃除はお母さんが大変な時にやってあげたい」「ダメなことを止めて、いいことをしていきたい」「1回で言われたことをする」「すぐすると、お母さんが子どもに言わなくていいから、いつもお母さんが楽になるからやりたいな」と、継続的にでき、それが子どもの自立につながる具体的な作戦を考えることができてきた。中には、「お母さんには内緒で、ばあばあと一緒に手荒れがあるお母さんのために食器洗いをしてあげたい」と、家族の様子を思い描き、自分ができることを考えている子どももいた。子どもたちは、すぐにでもやりたそうだったので、とりあえず、お試しで数日やってみようということになった。



【「家族ハッピー物語」の一部抜粋】

- だめなことを止めようと思います。なぜかという、今までだめなことをいっぱいやってきたからです。
- ママの怪我が治るまで、ママが大変そうなことをやることにしたよ!



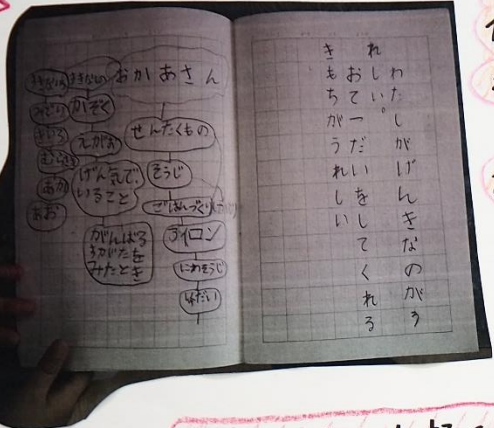
【今の目による見取りと指導】

- 自分が役に立っていることと、役に立っていないことを明確にして板書で比べることにより、手紙中心の作戦だったものがお手伝いや家族の手を煩わせないものに変わってきた。
 - ハッピー大作戦の振り返りの際に、家族の喜びや困らせたことが出てくることのできるよう、家族のハッピーを判断する言葉や表情などの視点を共有しておくとうかった。
- ☆ 次時のハッピー大作戦の報告では、視点を明確にした振り返りを行いたい。

第4時 ❤️ えがおいっぱい 😊 かぞくハッピー大きせん ❤️ 追究

さくせんかいぎをしよう!

あつーど、がんばっているところしらべたよ!



かぞくのやりにたのしみ ➔ かぞくがいかりはくはつ 大げん

そじ 😊 かた がム がた

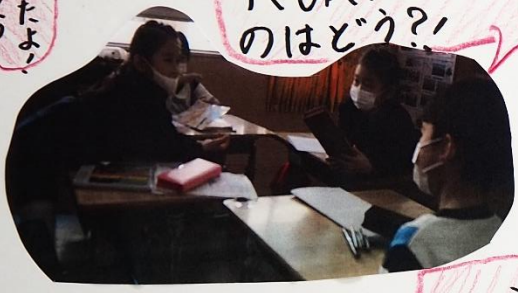
おせわ りょうり せんたく あふ ちが

いこうき か

さくせんかいぎ ♪

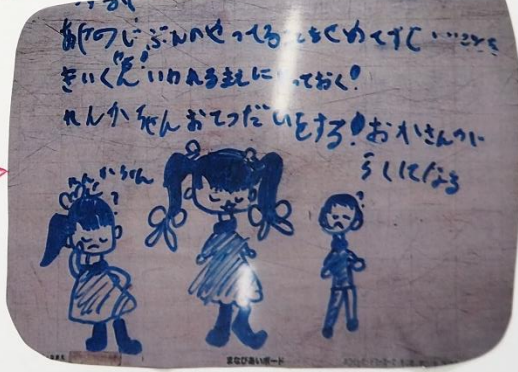


おかあさんは手あれがひどいからしよきあらいを手つたおうかな?



すぐしゃくだいをねのはどう?!

こんなさくせんをかながえたよ



旧? 毎日?

おためしハッピー大きせんをやってみよう!

ハッピー-ものがたり きょう で、今日の学ぼうをふりがえり中!

12/7 えがおいっぱい 😊 ハッピー大きせん ❤️

さくせんかいぎをしよう!

かぞくのやりにたのしみ かぞくがいかりはくはつ

そじ 😊 かた がム がた

おせわ りょうり せんたく あふ ちが

いこうき か

自分たから たのしみ いわれる前にやる! いわれたら、やる! おたためし しよきあらい

おためしハッピー大きせんをやってみよう!

☆ 家族を見詰める機会を繰り返し設定することで、家族のハッピーについての自分なりの捉えを明確にできるようにする。

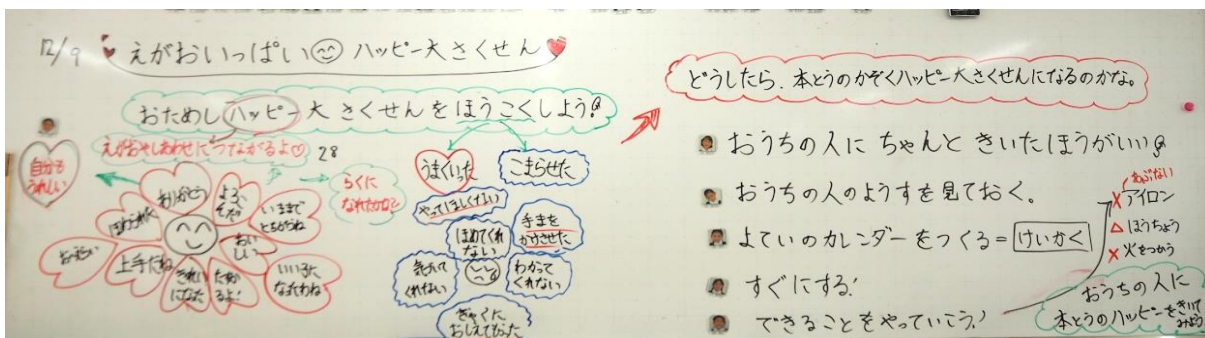
2日間のお試しハッピー大作戦を振り返った。子どもたちなりに頑張ったようで、まずは「ベンチでちょっとトーク」をしてやってきたことを報告した。子どもたちは、嬉しそうに友達に報告を楽しみながら繰り返し友達に伝えていた。その後、子どもたちの気付きを共有するため、全体での伝え合いの場を設けた。子どもたちから、「家に帰って宿題してから、肩をとんとんして夕ご飯の準備をしたよ。できたものをお母さんに見せたら嬉しがっていたよ」「お母さんがありがとうって言ったら、うちも嬉しくなったよ」「ママに、いい子になったわねと言われたよ」と、喜びの声が続々と聞こえてきた。気付きを共有する中で、「家族のハッピーって、笑顔や幸せにつながるよ」と、自分が家族の支えになっていることを自覚するなど、気付きの質の高まりが見られた。子どもたちはお試しハッピー大作戦に手応えを感じているようで、「うちの人は、これで楽になれたんじゃないかな」と価値付けることができた。



逆に「うまくいかなかったり困らせたりしたことはあったかな」と問い掛けると、「掃除をしたけど、何も言ってくれなかった。意外とほめてくれなかったよ」「普段より早く宿題を終わらせたけど、何も言ってくれなかった」「ベッドメイキングをしたのに、全く気付いてくれなかったよ」「ハッピーと困らせたの間ぐらいなんだけど、お家の人がこうしたらいいよと、手間を掛けこどおxさせてしまった」「お母さんが自分のお手伝いのお手伝いをしてくれた」「お手伝いしたんだけど、やってほしくないところもやってしまったから困らせたのかな」と上手いかなかったことがたくさんあったようであった。「これって全然楽しさせてないね」「困らせあるあるだよ」と、自分がやりたいことをやっただけでは家族のハッピーにならないということに気付くことができた。そこで、教師は「どうしたら家族の本当のハッピーになるんだろう」と問い返すと、周りの友達と考えた末、「やってほしくないこともあるわけだよ」「お母さんにちゃんと聞いてやるのが大事なんだ」「家族にちゃんと聞いてこよう」と子どもから提案があり、本当の家族のハッピーを追究する機会を繰り返し設定し、家族にインタビューすることになった。

【「家族ハッピー物語」の一部抜粋】

- 今日は、私はいろいろ考えたよ。みんな、すごい頑張っていた。今日、授業でどうしたら本当の家族のハッピー大作戦になるかなって、友達の見解が出たよ。どれもいい意見と思ったよ。これからも頑張る！
- 今日は、どうしたら本当のハッピー大作戦になるのかを考えたよ。そして、お家の人に聞いた方がいいか、お家の人の様子を見ておくかなんだけど、危なくないのをしたいいね。



【今の目による見取りと指導】

- 子どもたちの中で、家族の表情や言葉が家族のハッピーになったかどうかを判断する材料としてしっかり持っていた。
- 子どもたちから自然な形で、繰り返し家族を見詰める機会を求めると、このハッピー大作戦が子どもたちにとって自分事の活動になっていた。
- 2日間行ったが、1日目は家族の用事があったり忘れていたりして、実践できてない子どもがいたので、2日目はできるよう声掛けをした。
- ☆ 習い事や家族の生活様態によって実施が難しい場合もある。そのことを含めて、次の作戦では、自分の家庭生活を見通したうえで、作戦を考えさせたい。

第5時 えがおいっぱい😊がぞくハッピー大きせん♡ 追究

◎ おためしハッピー大きせんをほうこくしよう!

たすかるよ
ありがとう
きれいに なったよ
上手だね
やてほくは、ほめてくれない
きづいてくれない
川子 だね
これはない
えきやくにおし
うれしい
うれしい
こまらせた
いままでとちがうね
よこみ くれた
ほめられた
ええね
わかってくれない
手まを かけさ せた

どうしたら、本とうのかぞくハッピー大きせんになるかな?

すぐ ね!

おうちの人のようすを 見ておく!

おうちの人に ちゃんと きいたほうが いい!

よていのかぞく を つくる!

おうちの 人に 本とうのハッピーを きいて みよう!

- X アイロン
 - △ ほうちょう
 - X 火をつかう
- あぶない

12/9 えがおいっぱい😊ハッピー大きせん♡

おためしハッピー大きせんをほうこくしよう!

どうしたら、本とうのかぞくハッピー大きせんになるかな?

- おうちの 人に ちゃんと きいたほうが いい!
- おうちの 人の ようすを 見て おく。
- よていの かぞく を つくる = けいさく
- すぐ に する!
- できる こと を やっ て いこう!

おうちの 人に 本とうの ハッピー を きいて みよう!

☆ ハッピー大作戦を繰り返し設定することで、お話しハッピー大作戦の経験を、心ぼかぼか家族ハッピー大作戦に生かすことができるようにする。

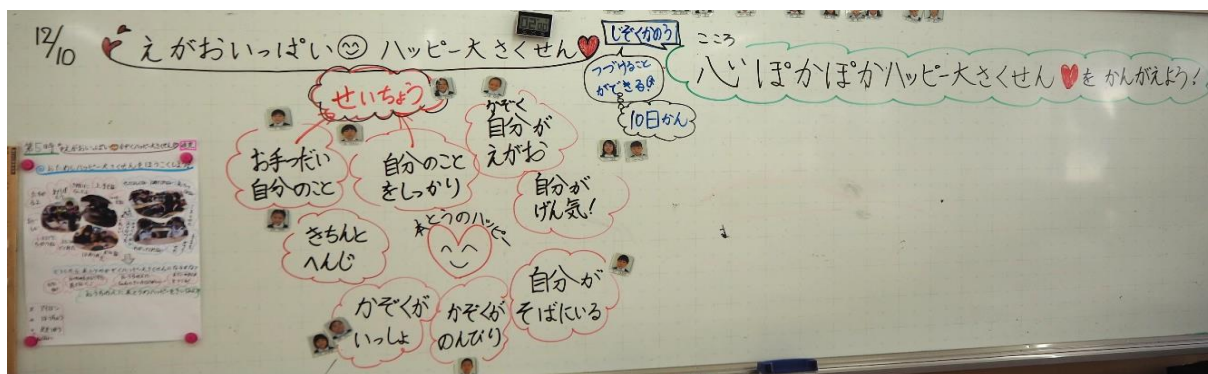
まず、「家族の本当のハッピーとは何か」ということで、家族から直接聞いてきたことを報告する時間にした。「家族がのんびりすること」「家族と一緒にいること」「家族が笑顔にいること」などの報告があり、それぞれの家族の本当の願いをしっかりと受け止めてきたようであった。これを聞いていたある子が「僕はこのままでいいんだよ。もう（家族のハッピー）ができとるから。元気で帰ってくるということが家族のハッピー大作戦なんだから」と、家族が求めるハッピーと自分の作戦があっているから、このまま続けていくと考えを新たにした。また、「バトンタッチ」と言う子どももいて、お手伝い→自分のやること→お手伝い→自分のやること→・・・というように「お手伝い」と「自分がやること」の両方が大事ということを見付けてきよう。一番盛り上がったのは、「お母さんに言われなくても、進んでやっているから、自分の成長している姿が嬉しいんだって」と笑顔で報告した時だった。多くの子どもたちからも「いいね!」と称賛の声が上がり、家族のハッピーに「成長」というキーワードが子どもたちの頭に刻まれた。

授業の後半は本当のハッピー大作戦を考えることにした。その前に、子どもたちと一緒に名前を考えた。「ハッピー笑顔大作戦」「家族一緒ハッピー大作戦」「幸せいっぱいハッピー大作戦」など、子どもたちが調べてきた本当の家族のハッピーがここに入っていた。最終的には「心ぼかぼかハッピー大作戦」がふさわしいということに決まり、ハッピー大作戦会議を始めた。前時で予定カレンダーをつくったら忘れないという子どもの意見から、10日間の予定表を準備して、それを基に考えることにした。悩んでいた子どもいたので、「全ての日を同じ作戦にしてもいいよ」と個別に声を掛けていった。特に悩んでいた「家族と一緒に笑顔でいる」という子どもには、「いつもにここにこするのは難しいよね。だから、一緒にできることをしたらいいんじゃないかな」と、「テレビを見る」「遊びに誘う」など、その子なりの家族のハッピーを作戦内容に盛り込んでいた。



【「家族ハッピー物語」の一部抜粋】

- 今日から自分のことをしっかりとしたいと思います。自分のことをしたら家族が手伝いしないで済むからです。
- 私は、お母さんが喜んでハッピーになることは、洗濯物を畳むことです。他にもまだあります。それは、自分がやることを人にやらせない作戦です。なぜかという、例えば、宿題で分からないところで呼んでしまうと、お母さんが苦勞している時に手が離せなくなるからです。

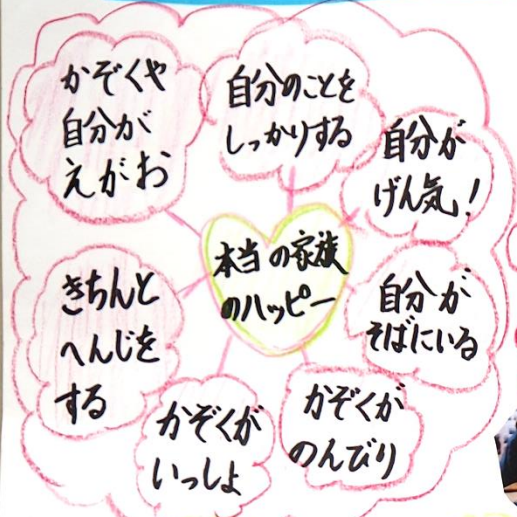


【今の目による見取りと指導】

- 本当の家族のハッピーから作戦を考えたことで、自分の家族が求めるハッピーにふさわしい作戦内容に変えている子どもが多くいた。
- 10日間のハッピー大作戦を考えるのに悩む子どもの姿もあり、教師の働き掛けや時間の保障が十分になされていなかった。
- ☆ 10日間のハッピー大作戦を実践中に振り返り、子どもの困っていることに対して援助していきたい。

第6時 ❤️ えがおいっぱい 😊 かぞくハッピー大さくせん ❤️ 追究

🌀 心ほかほかハッピー大さくせん ❤️ をかんがえよう



自分にとってなにが本物のかぞくのハッピーかな

★ どのようなさくせんが、おうちの人を本とうにハッピーにするのだろう。

日次	ハッピー大さくせん	かお	気づいたことやあつたこと
10日 金よう	せんたくものたみ		
11日 土よう	マッサージ		
12日 日よう			
13日 月よう	せんたくものたみ		
14日 火よう	せんたくものたみ		
15日 水よう	せんたくものたみ		
16日 木よう	せんたくものたみ		
17日 金よう	せんたくものたみ		
18日 土よう	マッサージ		
19日 日よう	マッサージ		

手伝えるように 手伝うのが 本物のハッピー

せんたくものたみをがんばるぞ〜♡

自分にてきんことをかんがえたい

★ どのようなさくせんが、おうちの人を本とうにハッピーにするのだろう。

日次	ハッピー大さくせん	かお	気づいたことやあつたこと
10日 金よう	かぞくとテレビを見る		
11日 土よう	かぞくとわすむ		
12日 日よう	かぞくとテレビを見る		
13日 月よう	かぞくとわすむ		
14日 火よう			
15日 水よう			
16日 木よう			
17日 金よう	ト		
18日 土よう	みんなでごいんごう		
19日 日よう	かぞくとテレビを見る		

かぞくといっしょにえがおになる

かぞくのえがおが本とうのハッピー

かぞくといっしょにあそんだりすいたりするぞ〜♡

かぞくのおむにこたえるさくせん

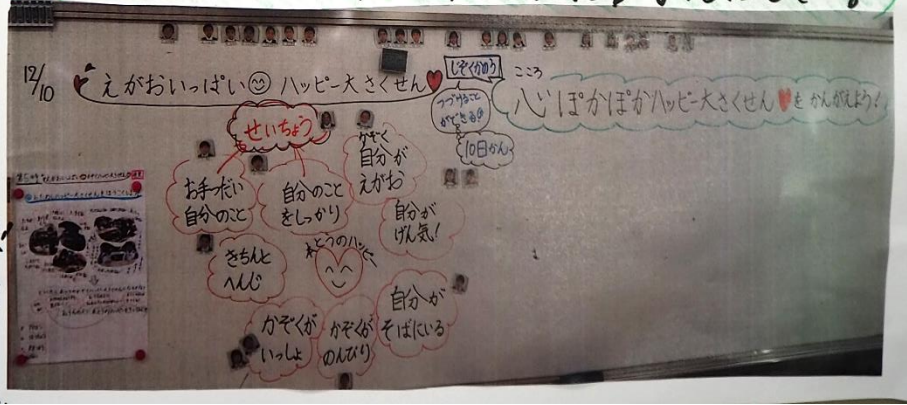
さくせん名かんがえたい! 🌀 心ほかほかハッピー大さくせん ❤️ がんばるぞ〜♡

じぞくかのうなハッピー大さくせんにしたいよ〜!

どういうこと?

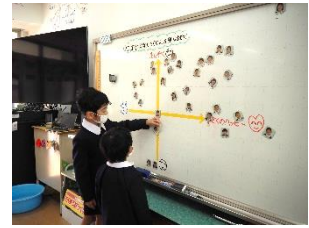
つづけることができること!

10日かんがえたい



☆ 心ぼかぼか家族ハッピー大作戦中の振り返りの時間をモジュール学習によって確保することで、日々の作戦を見直し、今日の作戦に自信を持ったり改善したりできるようにする。

10日間という長いハッピー大作戦においては、子どもの課題意識や意欲が薄れていくことがある。また、前時の作戦会議で十分な働き掛けや時間を確保することができなかった。そこで、心ぼかぼか家族ハッピー大作戦実施中の振り返りの時間を、モジュール学習によって確保しようと試みた。5分程度の時間を3日間、ハッピー大作戦の予定カードに簡単に振り返りを書くことと、作戦を見直すための時間を設けた。そして、2日間だけ15分のじっくり練り直す時間を設定した。その週における振り返りの計画は、月5分、火15分、水5分、木5分、金15分という具合である。

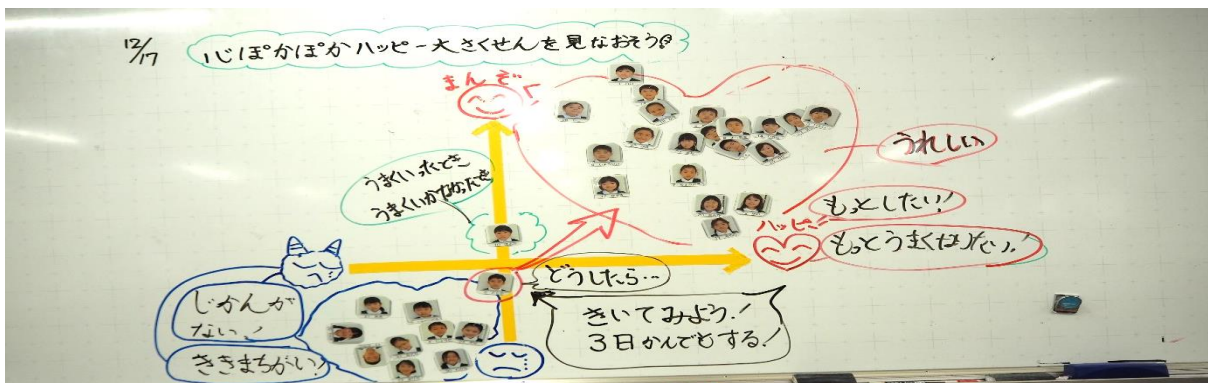


やはり、5分の振り返りではなかなか時間がないうえ、書いてすぐ提出するという時間しかなかった。しかし、教師はそれをその日に読み、「忙しくてできなかった」と書いている上手いかなかった子どもに対して個別に事情を聞き、「忙しいときは、自分ができることを探してみたらいいよ」と支援していった。15分の振り返りでは、対話や活動ができる時間が合ったので、子どもたちと進捗状況を確認したり、次の作品に向けての話し合いをしたりした。まず、思考ツール「座標軸」を活用し、横軸を「家族をハッピーにできたか」、縦軸を「自分は満足できたか」にして、自分の顔写真マグネットで、自分の心の位置を確かめてみた。多くの子どもが、「家族をハッピーにできて満足している」と自覚があるようで、「お母さんからありがとうと言われて嬉しい」「助かると言ってくれたよ」「みんなと一緒に笑顔でいることができたよ」と次々に喜びを伝え、ハッピー大作戦において気持ちを調整しながら粘り強く取り組んできたことがよく見えた。

その反面、「家族をハッピーにできず、満足もしてない」という子どもも多数いた。その子たちは、「また困らせてしまった」「今日はできなかった。帰ってくるのが遅かったらもう終わってたんよ」「やることを忘れてしまった」と、上手くできなかったと感じていた。本当に困らせていたり、忘れていたりする子どももいるが、「ちゃんとやったつもりが、やることを聞き間違えた」というように子どもの中には自分が求める家族のハッピーが高くてそこに至っていないという思いを持つ子どももいた。子どもたちに次への意欲が高まるよう励ますとともに、作戦を改めて見直すよう促した。

【「家族ハッピー物語」の一部抜粋】

- めっちゃくちゃ喜んでくれた。
- 宿題を早く終わらせたから、お母さんがびっくりしたから自分も嬉しくなった。
- お母さんはいつも簡単そうにやっているけど、本当はけっこう難しかった。
- ありがとうと言ってくれたけど、途中で、「そんなことをしている場合じゃないから早くお風呂に入りなさい」と怒られた。
- おもちゃを片付けたけど、ありがとうなどがなかった。



【今の目による見取りと指導】

- モジュール学習を取り入れることで、日々のハッピー大作戦に自信を持ったり見直したりして、子どもの粘り強く取り組む姿勢が見えてきた。
- 思考ツールを初めて活用したので、子どもたちに戸惑いがあった。
- ☆ 次時で3回目になるが、簡単な説明が必要であるので、ポイントを押さえていきたい。

第7時 ♥ えがおいっぱい 😊 かぞくハッピー大きせん ♥

追究

心ほかほかハッピー大きせんを見たおそう!



ぼくはどこかな?

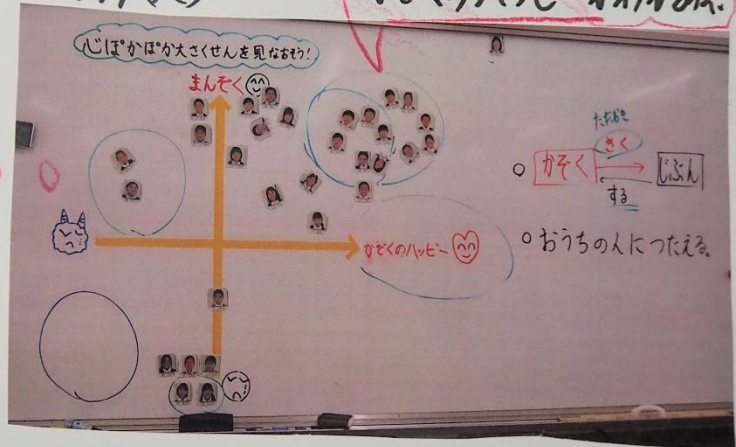
しこうツル
さびりく

うまくいかないときは、
かぞくに「きく」と、
かぞくのハッピーがわかる!

うまくいってないよね...
12/14(火)

うまくてきたかな。

おこらせただ、
よくい、いろから
いかな?



12/17(金)

こまたら、おうちの人に
きいてみよう!!

のこり3日がんばろう!!
やればやるほど
下がっていく...



大まんぞく!!
おうちの人とは
とてもよろこんで
いたよ♥

☆ 学級だよりや電話連絡、個別懇談等で家庭との連携を図ることで、家庭との協力体制を築き、子どもの思いや願いに向かって実現できるよう学習環境を整える。

【学級だよりの抜粋】

- 12/6 その後、ある子が「みんなの家族がどんなことをしているかは、そばにいと何をしているか分かるから、調べたらいいんじゃないかな」と提案したのを受けて、「家族のハッピーもっと調べ隊」として土日に家族が自分のためにしてくれていることを探すことになりました。さて、家族のハッピーを見付けることはできるでしょうか。
- 12/7 ただ今、ハッピー大作戦の学習をしています、「作戦」なので子どもたちの中にはサプライズの意味があり、子どもから「おかゆくんはどうして載せる?!」と注意を受けてしまいました。子どもたちには「大丈夫よ」と言ってごまかしています。懲りずに載せ続けますが、まだ公表してないお子さんがいましたら、知らない体でハッピー大作戦を受けてください(+_+)
- 家族ハッピー大作戦をするにあたり、家族をハッピーにさせていないという現状を自覚することは大切です。自分が頑張らないといけないうところが見えてくると、そこを改善しようとする作戦も出てくるのではないかと思います。手紙一辺倒の作戦は避けたいところです。あくまでも、この学習は、お手紙を書いたりお手伝いをしたりすることが目的ではなく、家族に支えられていることに気付き、家族の一員として自分ができるところをしようとする態度を育て、心の自立を促すことが目的です。明日の作戦会議が楽しみです!!
- 12/8 手伝いもかえって手間を掛けさせたことになったなら、遠慮なく子どもに困り事として伝えください。それを基に、更に進化したハッピー大作戦を考えます。また、「やってほしいことをお母さんに聞いたらいいんじゃない?」という意見もあるので、今度は家族が求めているハッピーをインタビューさせたいとも考えています。
- 12/10 お手伝いしたんだけど、やってほしくないところもやってしまったから困らせたのかな」「全然楽をさせてない。困らせあるあるだよ」など、この学習で大切にしたい「自立する心」を育てるための核心的な意見が出てきました。つまり、子どもたちがしていることが、家族のハッピーという名の「自分がやりたいこと」であり、「家族の求めるハッピー」とは少しずれているということです。家族のハッピーとは、各家庭で異なるもので、お友達と同じことをしても家族が喜ぶとは限りません。例えば、自分の息子に求めるのだったら、「言われる前にする」「言われたらすぐする」です。料理や掃除、靴並べなど手伝いは無数にありますが、あえて手伝いという捉えで言うならば、「家族の子どもに対する声掛けの手伝い＝自分自身に声掛け」という感じです。こうすると、親は怒らずに済み、気持ちが楽になり、子どもをもっと褒めたくります。こうして、自分のすべきことは自分ですという家庭での役割を自覚し、加えて掃除などもしてみようかなという思いが出るなど、自立する心が育まれるのだと思います(1年生のわが子には難しい・・・「そんなのは、お手伝いではない」と拒否されました)。
- 12/13 一番盛り上がったのは、「自分のお母さんに言われなくても、進んでやっているから、成長している姿が嬉しい」と聞いてきた子どもの意見でした。たくさん子どもたちから「いいね!」と称賛の声が上がりました。自分もこの学習の行き着く先は、家族のため、自分のために進んで行く姿であり、それそのものが自立する心の育ちであり、成長であります。その成長こそが、家族の喜びにつながるものではないかと思ひ、目指していきたいところです。このような話を子どもにさせていただき、本当にありがとうございます。授業が大いに盛り上がりました。
- 12/16 ハッピー大作戦のお手紙の件では、大変お手数をお掛けしております。お忙しい中ですので、簡単なもので大丈夫です。もし、明日間に合わないようであれば、当日の来週20日(月)に持たせてもらってもかまいません。どうかよろしくお願ひします(ただ、一人でも準備ができなくなると実施できませんので、ご協力をお願いします)。
- 12/20 保護者の皆様には、大変お忙しい中でお手紙を書いていただき、本当にありがとうございました。20日(月)のぎんなん学習で、必ず子どもたちの自立に向かう心が一つ上のステ

ジにいくよう、子どもの思いを導いていきます（お子さんの目や顔がハートの形になって家に帰ってくる姿を思い描きながら）。

12/21 昨日に重ねて、保護者の皆様には、お忙しい中でお手紙を書いていただき、本当にありがとうございました。子どもたちがお手紙を見せてくれました。書かれている内容が熱く、優しく、そして愛情深いもので自分宛ではないのに感動してしまいました。月組の子どもたちのため、手紙の依頼を受け、学習内容に沿って書いていただいたことを思うと、まるで子どもたちの成長のためにご家族と教師が一緒になってスクラムを組んでやってきた感じを受け、胸が熱くなりました。

【学級だより等でのお願い】

1 2月6日（学級だより）

—お願いがあります—

12月のぎんなん学習で、子どもたちは「家族のハッピー探し」をします。そこで、子どもたちがお家の人がしていることを観察したり、インタビューしたりすると思います。この学習を通して、家族によって支えられていること、家族の一員であり必要とされていること、自分にもできることがあることなどが分かり、家族のために自分ができることを今後も行っていこうとする態度を育てることをねらっています。

「家族のハッピー探し」では、子どもからお家の人に「（お子さんに対して）ふだんのようなことを嬉しいと感じるか」というような質問をしたいと思います。その質問に、「お手伝い」「自立」「努力」「団らん」「思いやり」「健やかな成長」「充実」「健康」などの視点からお子さんを見て感じておられることをお伝えできたら有り難いです。それを共有し、家族のハッピー大作戦（例：お手伝いをするぞ！一人で起きるぞ！）を計画してみたいと考えています。子どもの働きによって、お家の方がここに笑顔になれたら、子どもの自己有用感が高まり、これからは続けたいという子どもが育つと思います。ご協力、よろしく願います。

1 2月7日（学級だより）

—お願いがあります—

今日か明日、お試しハッピー大作戦をします。やらせてみて、うまくいかないとか、困ったことがあるとか、役立とうと思ったが逆に手間を掛けさせてしまったなどが出てきたらいいと考えています。例えば、アイロン掛けをしようと思ったら危ないと言われ断念、皿洗いをしたらあまりできず逆に怒られた、洗濯をたもうとしたりぐしゃぐしゃになりもういいよと言われた、折り紙をプレゼントしたがあまり喜んでもらえなかった、お手紙をあげたが毎日はいらないかもと言われたなど。

このお試しハッピー大作戦を経て、作戦をもっと深く考えていきたいと考えます。本当のハッピーは家族が健康でいられたり、団らんが楽しくなったり、自分が自立したりすることなどです。だから、お手伝いだけでなく、帰ってきたらすぐ宿題する、片付けをする、自分で時間割をする、自分で起きることも、子どもの成長を心から願う家族のハッピーではないかと思います。活動を幅広く捉えていますので、お子さんのお家での困り事を何とかするチャンスかもしれません！これを機に、困り事をお子さんに伝えてみてはいかがでしょうか。

1 2月14日（保護者宛の文書）

ぎんなん学習における子ども宛の手紙作成の依頼

寒冷の候、保護者の皆様におかれましては、日頃より大変お世話になっております。

ご存じのように、現在、ぎんなん学習「えがおいっぱい かぞくハッピー大さくせん」の学習において、10日（金）～19日（日）までの10日間、子どもたちが家族のハッピーを求めて、「心ほかほか かぞくハッピー大さくせん」を行っております。自分がしたいことではなく、家族にとって何がハッピーなのか子どもたちになりに見極め、実践している最中です。

そこで、お忙しいことは重々承知しておりますが、子ども宛に手紙の作成のご協力をお願いしたいと思います。家族ハッピー大作戦に取り組んでいるお子さん宛に、家族からのお手紙を学校に持たせていただきたいと考えています。10日後の12月20日（月）に家族からの手紙を子どもが読むことで、子どもはやってきたことの価値を実感し、これからは続けていこうとする自立する心が育つと考えます。この学習がただの体験で終わらないよう、学習後も子どもたちの家族ハッピー大作戦がずっと続いていくよう、実りあるものとしてお手紙のご協力をお願いできればと思います。

19日（日）まで続くハッピー大作戦ですが、今週の12月17日（金）までにこの封筒に入れて子どもに持たせていただきたいです。また、サプライズでもらうことにより子どもの感動は大きいものになります。できるだけ子どもに知られないようにしていただくと助かります。どうぞ、よろしく願います。

1 締切 12月17日（金）

2 内容 家族からの感謝、家族からの更なる期待、家族が考える家族のハッピー（喜びやお子さんの自立や成長など）、短い手紙でもかまいません。

3 その他 学校の封筒に入れて持たせてください。

☆ 子どもが身近な生活にかかわる見方・考え方を生かすことができるようにすることで、自分と家族とのつながりを感じ、気付きの質が高まるようにする。

10日間のハッピー大作戦を終えた子どもの多くは、晴れ晴れとした顔をしていた。やり切ったという充実感や家族からのお礼の言葉から満足感を感じているようであった。その中で、自分のやってきたことってどうかなと思う子どもや手応えを感じていない子どももいるようであった。

そこで、まずは、「ベンチでちょっとトーク」により、自分がやってきたよさや頑張りを再確認することができるよう、ハッピー大作戦を友達に伝える時間を設けた。子どもたちの伝え合いが充実した頃を見計らい、次に、思考ツール「座標軸」を活用し、「自分自身」とつなぐことにより、子どもたちにハッピー大作戦に対する自己評価とした。子どもたちの中には、「満足すぎます」や「お母さんたちだけでなく違う人にもしたらハッピーが広がってみんなが満足してくれて、自分もだんだん満足してきたからハッピー」と成功したと感じている子どもがいた。その反面、「お手伝いをして褒められるけど、勉強してないって怒られる」や「机を片付けようと思ったけど、全部物を出しちゃって、それで片づけなさいと言われてしまう」など、上手くいっていないと感じる子どももいた。

ここで、自己評価した子どもに対して、教師は「本当に家族をハッピーにできたの？」と揺さぶりを掛けた。そうすると、子どもたちの中でハッピーにできたかどうか揺らぐ子どもが出てきて、「家の人に聞いたらいいのでは」という意見まで出てきた。このタイミングを見計らって、お家の人から預かってきた手紙を出し、家族がどう思っているかはこの手紙の中にあることを伝え、子どもたち一人一人に手渡した。じつと手紙を見詰める子、目をうるうるさせている子など、子どもたちからその様子が伝わってくる。

子どもたちが一通り読んだ姿を見て、子どもの見方・考え方を生かすために意図的・計画的に考えていた発問「お家の人の言葉の中で一番すてきだなと思ったのはどんな言葉かな？(前日までの子どもの姿を見て、指導案にある言葉から変更している)」を投げ掛けた。「自分たちはちゃんと役立っているかなって心配だったけど、助かっているよって言葉で、助かっていたんだなって心が温かくなる感じで嬉しい」と、家族をハッピーにさせた喜びと家族の愛を受けて自分自身もハッピーになったことを嬉しそうに伝えた。また「自分がどんなに成長しているのかがお母さんにも伝わっているのかな」「いつもお手伝いをしているから心に伝わってお返ししてくれる」「自分だけがハッピー大作戦を頑張っているんじゃないで、家族みんなが家族全員をハッピーにしているということなんだね」と、家族が互いに支え合っていることを改めて自覚し、気付きの質を高めていくことができた。最後の振り返りで、「家族ハッピー物語」で書いた「家族が助け合って生きているのが伝わってすごく感動しました」ということを発表して授業を締めくくった。

【「家族ハッピー物語」の一部抜粋】

- お母さんが手紙をくれたよ。お手紙にはお母さんの気持ちが書かれていました。失敗しても、もう一回したらいいと書かれていたので嬉しかったです。
- 自分が気付いたこと。ハッピーをしたらハッピーの糸で結ばれている。手紙を渡したら、もっとハッピーの糸は太くなる。



【今の目による見取りと指導】

- 家族からの手紙は子どもたちを感動させるが、見方・考え方を生かす意図的・計画的な働き掛けにより、家族の思いを引き出し、気付きの質を高めることができた。
 - 子どもたちの手紙を読んでいる様子やそこからの流れから、「本当に家族をハッピーにできたのか」ということを確認しなかったが、やはり問いに対する答えとして全体共有を図る必要があったのではないか。
- ☆ 次時の始めに、全体共有を図る時間を設定して、そこからの授業の盛り上がりを生かして家族に対する思いを自分なりに伝える活動につなげていきたい。

第8時 えがおいっぱい😊かぞくハッピー大きくせん♡

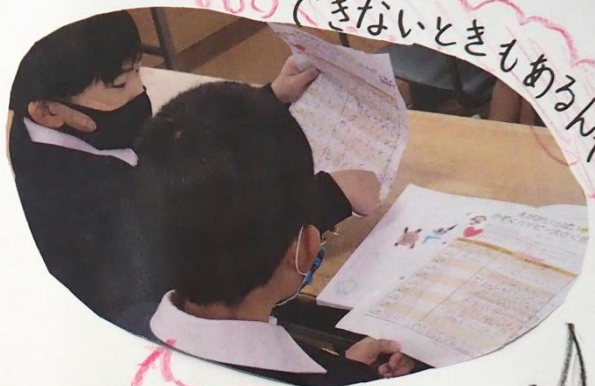
追完

① 心ぽかぽかかぞくハッピー大きくせんをふりかえろう!

ベンチでちょっとーク



がんばれーね!



できないときもあるんだね。

へーそんなこともしてたのか?!

かぞくをハッピーにできたよ!

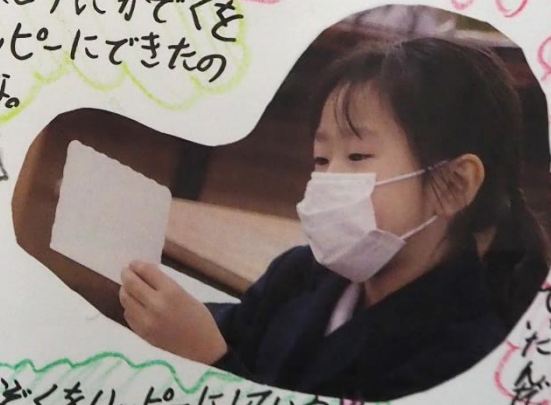
なみだが
とまらない...



うまい
かなときも
あるよ...



まんぞくた!
本とうにかぞくを
ハッピーにできたの
かな。

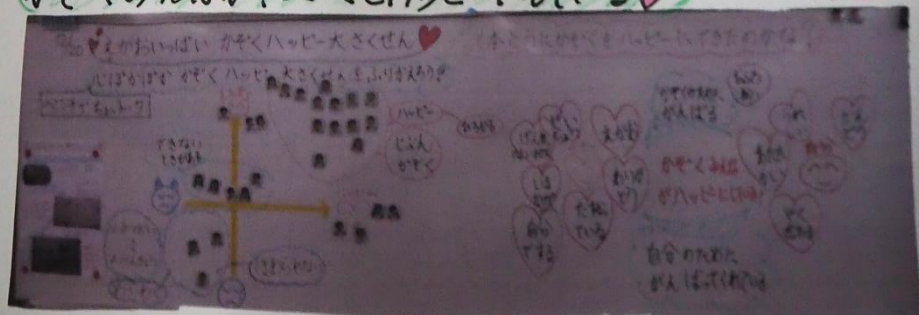
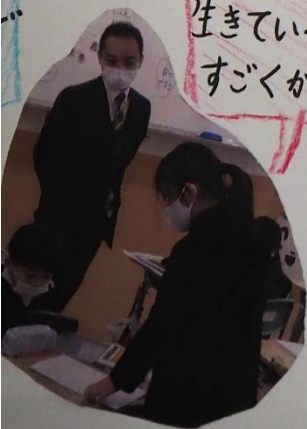


おかあさんはそうわら
ていたん

かぞくがたすけあて
生きているのがつたわて
すぐくかんどうしました!

お手がみらうて

かぞくみんなが、なぞくをハッピーにしている♡



☆ 家族に対する思いを自分なりに伝える活動を設定することで、今まで培ってきた資質・能力を生かし発揮する場とする。

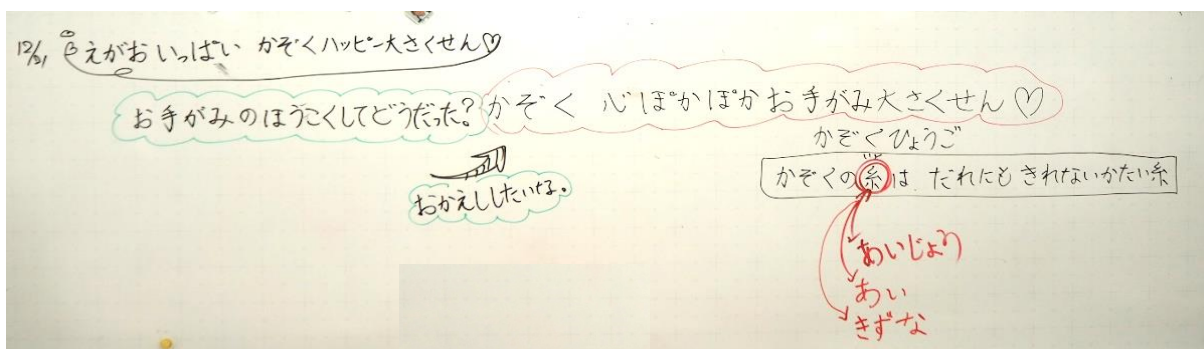
授業の始めに、手紙をもらったことを家の人に伝えた時の様子について、子どもたちから教えてもらった。「感動して涙がめちやくちや出たって言って、お手紙書いてくれてありがとうって言ったよ。それでお母さんからどういたしましてって言ってくれた」と、どの家庭も子どもからの報告を楽しみにしていたようであった。その後、前時で課題として挙げた「本当に家族をハッピーにできたのか」という問いに対する答えについて、教師から「心ぼかぼか家族ハッピー大作戦はうまくいったかな。それともそうじゃなかったのかな」と改めて問いを投げ掛けた。子どもたちから「もう大成功だ」と歓声上がる中、「待って、泣きそうなんだけど。やっぱり家族って助け合っているね」と改めて家族のよさを感じている子どももいた。

ここで、ある子の「家族ハッピー物語」の振り返りを紹介した。「ハッピーの糸があつてね、自分と家族が結ばれている。お手紙を渡したらもっともっと家族と自分のハッピーの糸が太くなる」と伝え、子どもたちからも称賛の声が上がるとともに、「もし、切れたらどうするの?」という疑問も出てきた。そうすると、別の子から「ハッピーじゃなくなる。でも、切れちゃってもさ、また一生懸命したら、またつながるよ」と、失敗しても何度も頑張っていくことが大切ということを教えてくれた。子どもたちの家族への思いが高まってきた頃、子どもから「自分たちも家族に頑張ってお手紙を書いたら家族も喜ぶんじゃない?」と提案してきた。それを受けて「じゃ、みんなも書いてみる?」ということから、家族への手紙を通して自分の思いを伝える心ぼかぼかお手紙大作戦の活動を行うことになった。手紙を制作後、子どもたちはその日にそれぞれの家の人にきちんと渡すことになった。(その後少し横道に逸れ、そのままの授業の流れで家族標語をつくる時間にしまった。子どもたちも楽しんで思いを込め一つの標語をつくっているの、一緒になってつくった。1年月組がつくった家族標語は「かぞくの糸はだれにもきれないかたい糸」である。これも、一つの家族への思いを形にする活動として考えた。)



【「家族ハッピー物語」の一部抜粋】

- 今日はお母さんに手紙を書きました。お母さんに手紙を渡したらどうなるかな?もしかしたら、なんともないかも。どっちかとても楽しみです。
- 私は、今日いいことを思い付いて。それは家族に手紙を書くの。なぜかというと、お母さんたちが手紙を書いてくれたから。



【今の目による見取りと指導】

- 思いがけない流れだったが、子どもから家族のハッピーを標語という形で表す活動になり、満足のいく標語をつくることができたが、気付きの質を高めている子どもたちだからこそできた活動と言えるのではないか。
 - 手紙や兵庫だけでなく、多様な表現活動へ広がってもよかったが、学期末ということがあり、時間の制限を考えるともう一步踏み込むことができなかつた。
- ☆ 次年度は、日程としてもう少し早くこの活動時間を保障していきたい。

おかあさん、おとうさんへ
○お手がみほんとうに、ありがとううれしかったです！
おかえしにお手がみをかば回 ちゃんのために、そんじ
ぎや、せんたんのとかいろいろやってくれてありがとうおとうさんと
ままがえんの下のりからもうたはったまとはいはいないよ
わたしはしんているとおもう、マンジョンがきたなくなるからだよ
わたしはおかあさんとおとうさんがいてくれて、こころづよいよ
ちい、これからパパとママのためにがんばるね
ママとパパ、おうえんしているよ、ままとパパ大好き
ママとパパがだいすきなより

○おかあさん、お手がみをもらってわたしがい
べばかばかにならなはわたしもかもしれたいな。
わたしをおうえんしてくれてありがとう。
わたしもかんばるからおかあさんもかんばるね。
いつもわたしがいなくともはたらいではたらいていそが
しいとおもうよ。これからわたしもかんぞくをじるんから
おうえんしていいことになるね

大好きなかくへ
おかあさん、まえてがみありがとう。
かぞくのなかくーばん大好きだよ。
おかあさん、いつもがしろうにしてはたらいてね。
これからはいっしょに遊ぶよ、おとうさんがいしょ。
おかあさんがおとうさんでもしてるときそばで見るね、おは
れいしよ、これからはざーとがんばるぞーおー
これからはおかあさんでもとあたしのひをすきでいいね。
これからはざーとおかあさんのままでいいね。
おてがみおがえししてくれ、たのしよ、おねがいね。
より

ママへ
さのうはおてがみありがとう。ママがえん
になつた、そえがおになるよ！ママと
いそよかえん、これからはめんない、でいろいろたのい
つとをかぞえようにかぞきもどかするね。
より

ママ、パパへ
お手がみありがとう、さくくおもいがつたわっ
たよ。あさから、たいへんなのに、ままか、おまかせ
んかぐれるとは、おもわなかつた。ゆうせくんも大
くなく、まますすたいへんになるとおもうけど、かんば
ってね。いつもわたしのことをかんがえてきかえや、り
うりをしてくれてありがとう。これからはおしんこ
かんばってね。わたしもかんばるよ。ち、ちいこから
きたてこくれ、ありがとう。生まれできて、よかった
大好き♡

大好きなかくへ
いつもごはんをつくってくれたり、そう
いよ、ありがとう。わたしはうれし
いよ、ほんとうになかをかをして
くれて、わたしはうまれてうれしか
たしとて、たのしかったよ。
またいっしょにあそんだりべん
きょうをいっしょにかんばろうね
だいすき♡

☆ 思考ツール「Yチャート」を活用して、「家族（対象）」「学び方（他者）」「自分の成長（自分自身）」の三つの視点で振り返り、「深い学び」を自覚できるようにする。

昨日、家族に宛てた手紙を渡したときの様子を子どもたちに尋ねるところ始めた。どの家庭でも驚きと喜びで、中には涙された家族やぎゅっと抱きしめられた子どももいたようであった。そのような活動までに至るまでの学習を振り返り、学んできたことをしっかりと自覚する時間として単元終末に本時を位置付けた。

まず、子どもたちには「家族ハッピー物語」の最後の一面に、「家族（対象）：『かぞくのハッピーってなに？』『学んだこと』、「学び方（他者）：『こまったときに、うまくできたやりかた』『自分の成長（自分自身）：『自分のせいちょう』の三つの視点で学びを振り返ることができるようにした。子どもたちが自分の学びについて「家族ハッピー物語」に書き込んでいる間、教師は子どもたちの記述を見取り、その場で朱書きをしたり称揚したりして子どもの学びを意味付け・価値付けするとともに、周りの子どもたちにもその学びの自覚が広がるよう声を広げ、ゆるやかな協働的な学びを促した。

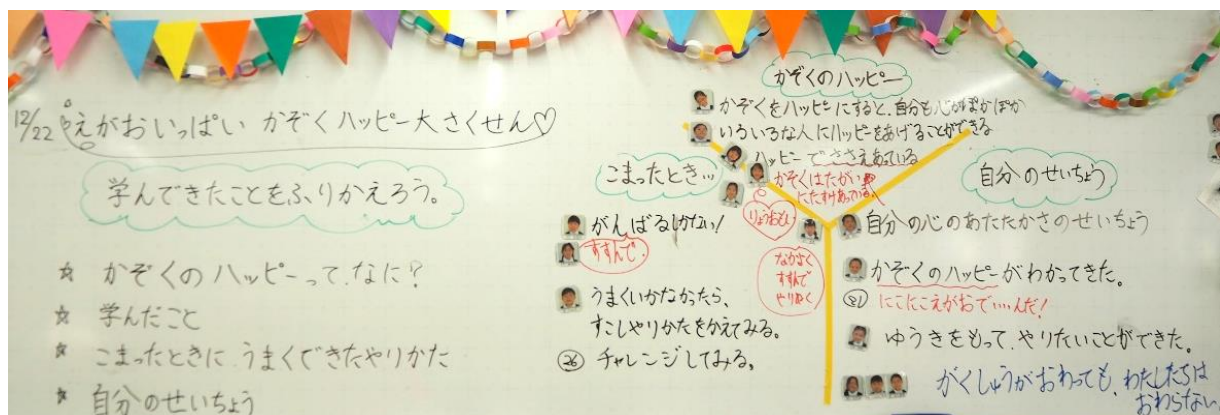
その後、思考ツール「Yチャート」を活用して、子どもたちの学びの共有化を図ることにした。

「かぞくのハッピー」については、「ハッピーをもらおうとみんなの心がぼかぼかになるよ」「ハッピーはみんなからもらえるし、みんなにあげられるね」「私がハッピーにすると家族がハッピーになって、家族がハッピーをすると私がハッピーになる。両想いってことだよ」「ハッピーで支え合っているから、家族は互いに助け合っているね」と発表し、家族という「対象」の世界観が子どもたちの中に広がっていた。

「こまったときに、うまくできたやりかた」については、「できないことでも、諦めずに進んでやり抜くことができたよ」「『なかよく・すすんで・やりぬく（本校の校訓）』をすることでできるようになるよ」「失敗したときのやり方と少し替えることで、できるようになる」「始めた頃は何をしていいか分からなかったけど、家族に何をしたいか聞くことで、きちんとやることができるようになったよ」と、自分が困った時にどのように解決したらよいかを考えを持つことができていた。

「じぶんのせいちょう」については、「自分の心の温かさの成長が家族のハッピーにつながるのかなと思ったよ」「家族のハッピーが分かってきた」「始めは何がハッピーなのか分からなかったけど、ハッピー大作戦をするうちに家族がにこにこ笑顔になるから、それが家族のハッピーなんだということが分かったよ」と、自分自身の成長や変容を自覚し、自信を付けているようであった。

最後に、「これで家族ハッピー大作戦の学習は終わります。みんなの家族のハッピーも終わるのかな」と投げ掛けると、「家族の糸は切れずにつながっているよ」「学習は終わるけど、生き物の学習と同じで（生き物の学習の時に、同じような言葉が子どもの心の中に残っていたようである）、学習は終わるけど家族のハッピーは終わらないね」という心温まる言葉で学習を締めくくった。



【長い目による見取り：【「家族ハッピー物語」の最後の一面に書いた単元の振り返りの抜粋】

家族には、それぞれのハッピーがあることが分かりました。自分はハッピーにするのが得意なのかもしれませんが、それだったらもっともっと人をハッピーにしてあげます。これが自分の成長です。

始めに思った家族のハッピー大作戦は、家族の好きな物や食べ物と思ったけど、本当は違うと分かったんだよ。今は、お手伝いだって、お母さんやお父さんを楽にさせているよ。

家族のハッピーは、みんなを笑顔にすることです。学んだことは、掃除でみんなを笑顔にするとみんな笑顔になりました。みんなを笑顔にできると、自分も笑顔になりました。自分は役に立っているんだと思いました。失敗したやり方をちょっと変えると成功しました。

家族のハッピーは自分のことをすること、お手伝いをすることです。なんでお風呂の準備をしたかという、今まではお風呂の準備を見てなかったから大変さが分からなかったけど、今は見ているから大変だなと思いました。

やっと意味が分かったんだけどね、いろんな人がハッピーになったらみんなにここに笑顔になって、みんながハッピーになったら今度は笑顔になっていろんな人に助け合いをして、今度はみんな仲よくなって、みんな友達になって、お友達が笑顔になってみんながぼかぼかになるんだよ。

家族のハッピーって何だろうって思っていたけど、家族のハッピーがみんなにうつるということが分かったよ。もしハッピーがなくなったらみんなのハッピーをあげ続けたら、みんなのハッピーももっとももっととーとーとだんだん大きくなって、そのハッピーもずっと続いてみんなにハッピーをあげられる心が爆発しすばらしい心になる、それが家族のハッピー♡

最初は、小さいことしかやらなかったハッピー大作戦が、ここまでになるとは分からなかったよ。最初言っていた家族のハッピーは、家族の一人だけのことを言っていたのだ。だからだめなんだ。でも、これは成長の大事な一歩なんだ。そういうことで、ハッピーの歴史が続いていったんだ。

お母さんに褒められて、自分も心がぼかぼかになって嬉しくなったよ。もしかしたら、家族の助け合いと愛情が見えない線につながっているのかもしれない。家族ハッピー大作戦が終わっても、手伝いをどんどん続けていくようにしようかな。そうだ！おじいちゃんおばあちゃんも手伝おう！

私の家族のハッピーは、いつも元気なことです。私が病気になったら病院とか行かないといけないから、パパとママが面倒くさいと感じるからそりゃそうだろうなと思いました。…学んだことは、家のこともお手伝いしないといけないということです。いつも自分のことをしかやっていたから。

始めにする時は、何をやるんだろうと思いました。だんだんやっていくとすごいいいことが起きて、家族が笑顔になって喜んでくれました。この学習が終わっても、家族の笑顔は永遠に終わらないと思いました。だから、私はみんなに他の人にも笑顔にさせたら世界中の笑顔に響くんだなともいました。

家族の愛情、それは助け合いのことにつながっているんだなという気持ちのおかげで、今は本当にハッピーです。お手伝いのおかげで助け合い、みんなのおかげでみんながハッピーになり、今度はそれを自分がお返ししたら、こんなにハッピーになるとは思ってもいませんでした。それはまさに、心の温かさがもっと成長しているようでした。

- 三つの視点から振り返ることで、「家族（対象）」「学び方（他者）」「自分の成長（自分自身）」について自分を見詰めることができた。子どもたちは、「出会い」の場面の頃と比べて、質の高い自分なりの家族のハッピーを捉えることができていた。
- 全ての子どもが三つの視点で振り返ることができているわけでない。いずれかの視点を重点的に振り返っている子どももいた。

【広い目による見取り】

1 2 月 20 日 (学級だより)

もしお手間ではなければということですが、「ハッピー大作戦」の学習について、お子さんのご家庭の様子をお聞かせ願えたらと思っています。以前と比べてどうでしょうか。自分から動く姿や家族を大事にしようとする姿が見られますか。逆に、特に変わらないでしょうか。この学習の改善に向けてご意見を頂けたらと思います。よろしく願いいたします。(締め切りはいつでも、また、新年明けてからでもかまいません。ご都合が悪い場合は、全く無理にされなくても大丈夫です。)

【3 2 人中 1 8 人回収】保護者からの手紙 (一部抜粋)

お手伝いは言われてするもの、日常の家事はお母さんがするものと思っていたものが、当たり前ではなく、感謝するものだと思い付いてくれ、自分も家族のために役に立ちと考えるようになりました。

自分も役に立てる、家族の一員なんだという意識がわいたように思います。誰かのためにハッピーのために頑張ること、結果的に自分もハッピーになることが分かったのかと嬉しく思います。

この学習を通して、何が本当に喜んでもらえるのかという他人を思いやってくれてくれるように少しずつ成長できたと思います。我が家の場合、とてもマイペースでお手伝いというより、まず、自分のことを済ませて！と思うことがありますが、ハッピー大作戦のため！喜んでもらうため！という目的のため、自分のことを済ませてお手伝いをする姿がとても嬉しく、本当に助かりました。

以前と比べて自分が今すべきことを考え、自分から動こうとする姿が見られるようになりました。ハッピー大作戦を通して、子どもだけでなく、親の方も変化ありました。今までは、「あれしなさい」「早くして」という感じでネガティブ気味な声掛けをしていましたが、「ハッピーになりたいな」「あれしたらハッピーなりそう」というポジティブな声掛けになりました。

今までは言えばやってくれるような感じでした。しかし、今までやらなかった家に帰ってからの制服をハンガーに掛けるとか、習い事の準備をするとかは何も言われなくてもやるようになりました。小さいことですが、すごく助かっています。

以前よりも自分でやる、お手伝いするよと積極的に行動することが増えました。もちろんできないことも多いですが、相手にとって幸せなことか、助かることか、反対にマイナスなことか、一つ一つをよく考えるようになったと思います。相手を思って自分の行動を考え、また、相手のことを考える、そういう心が少しずつ育っていると感じます。ハッピーをつくりだすと一生懸命な姿が嬉しいです。

自分の役割を考えるようになりました。それ、僕がするよと言われる回数が増えました。家族のハッピーを考えて役に立ちたいという気持ちの表れと感じます。家事で忙しくしているお母さんの代わりに弟に絵本を読んでもくれたり、ベランダの掃除をしたりと手伝いを進んでしてくれるようになりました。そのことにより、家族も「ありがとう」を伝える機会も増えました。

自分で進んで掃除はもちろん、周りに心配りができるようになったと感じます。自分も誰かの助けになっている、自分のしたことで喜んでくれる人がいる、自分も誰かの役に立つことができる、自分に自信が持てる、相手も大切、自分も大切にできる、そのような成長を感じます。

- 家族のために自分のことは自分でする、家族のために役に立つことは自分でするという自立する心が育まれていると考える。また、家庭生活を豊かにしようとする姿から、「深い学び」を実現している子どもの姿と言えるのではないだろうか。
- 全ての家庭から回答を得たわけではないので、概ねの評価となる。



【長い目による見取り：学習後の姿「ぎんなん日記」】

まだしんじゅは
ある

えいき

その気もちほどでもないね
とんどんハッピーにさせてね

<p>おきたじこく</p>	<p>（時しらべ） （毎日時刻をきめてしらべましょう）</p>	<p>天気 はれ くもり あめ</p>	<p>12月24日 金曜日</p>
	<p>ハッピー大きくせんで、 わたしは、まだつづいて まあるなぜかというところ ずいぶんかいたことがた しになるし、ムハがさ ちうかもしれないか ら、ぜったいにハッピー大 きくせいはやめないの で、 うか、けんきゅう をせこ たい</p>		